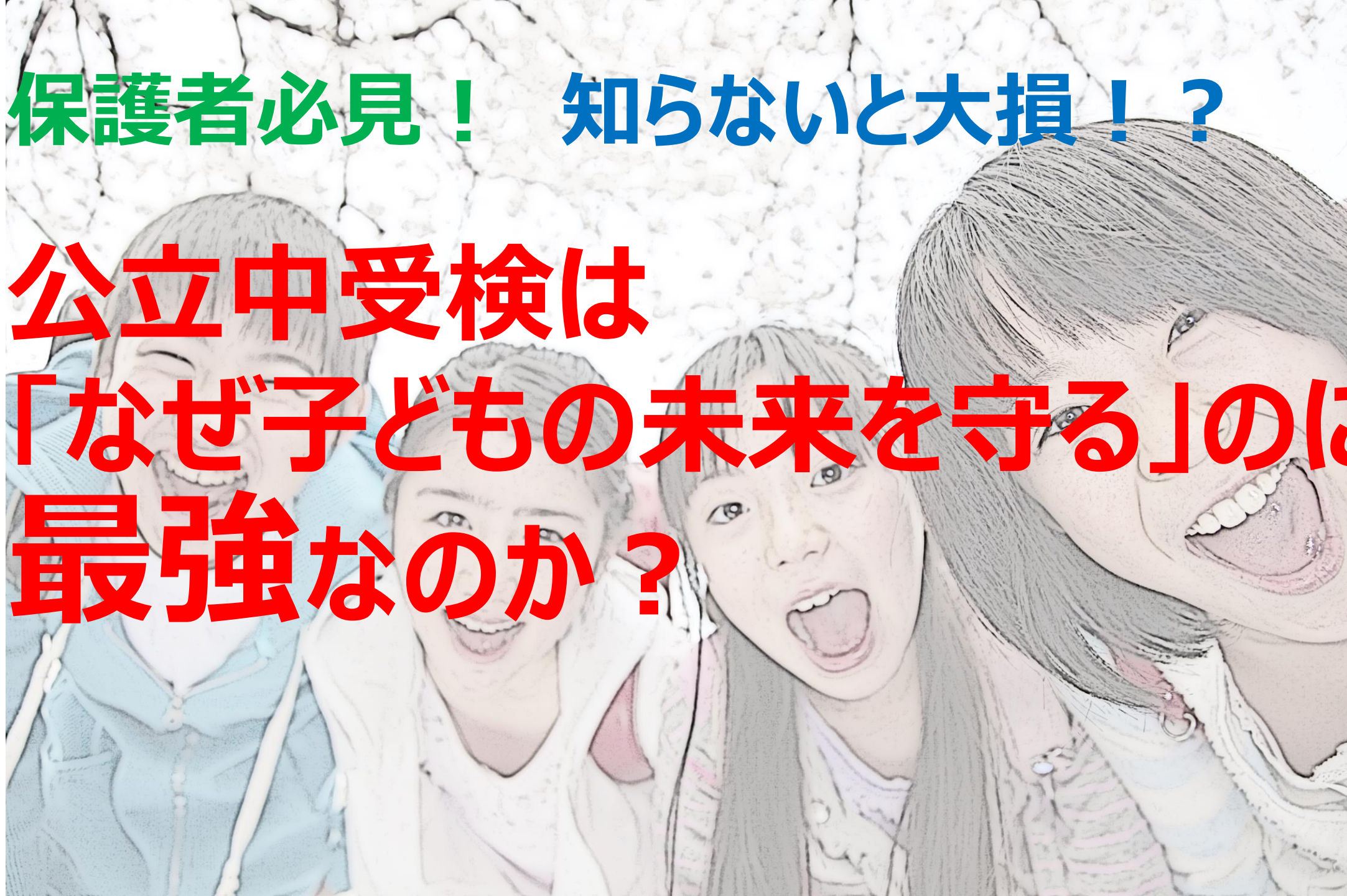


保護者必見！ 知らないで大損！？

**公立中受検は
「なぜ子ども未来を守る」のに
最強なのか？**



**公立中受検は
「なぜ子どもの
未来を守る」の
に最強なのか？**



その理由を本日はお話しします！

公立中受検 合格率7年連続No.1

完全1対1受験指導 ライトハウスアカデミー

塾長：安田 浩幸



**今日、お子様と保護者様の次の三つ
のお悩みが解決するきっかけになれば
幸いです。**

①一つ目のお悩み

公立中受検・・・

する？ しない？

②二つ目のお悩み

うちは

私立中受験 公立中受検・・・

どっちにする？

③ 公立中受検をするとしたら

どうやって勉強したらいい？

いつから始めたらいいの？

公立中受検はすべきなのか？

公立中受検はすべきなのか？

絶対すべき！ 落ちたとしてもすべき！
なぜなら・・・

なぜ、公立中受検はすべきなのか？

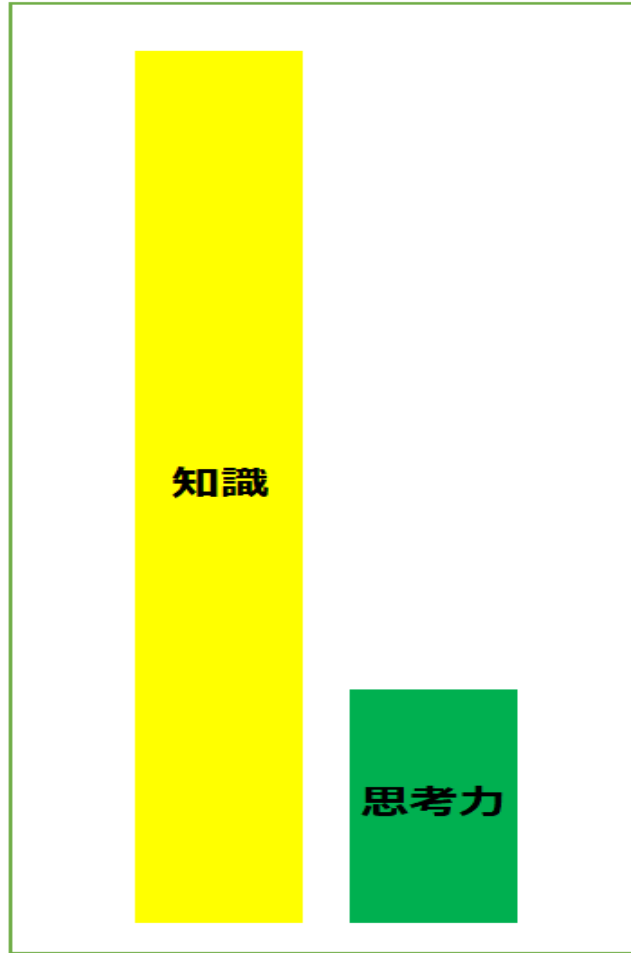
公立受検には
「**子どもの未来を守る3つのメリット**」
があるからです。

子どもの未来を守る三つのメリットとは？

1. 自立できる「真の学力」が身につく

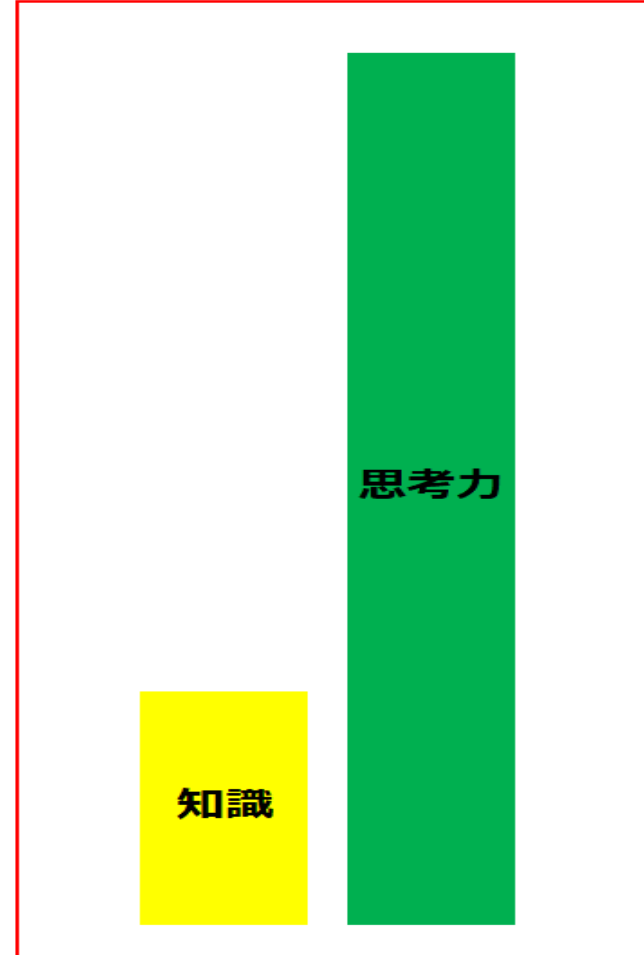
- 大学受験に必要な力のベースを身に付けられる
- AIにも、外国人労働者にも負けない力

私立中の問題



**深い知識
浅い思考力**

公立中の問題



**浅い知識
高い思考力**

学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴


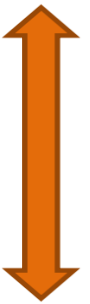
深いアプローチ

- これまで持っていた知識や経験に考えを関連づけること
- パターンや重要な原理を探すこと
- 根拠を持ち、それを結論に関連づけること
- 論理や議論を注意深く、批判的に検討すること
- 学びながら成長していることを自覚的に理解すること
- コース内容に積極的に興味を持つこと

浅いアプローチ

- コースを知識と関連づけないこと
- 事実を棒暗記し、手続きをただ実行すること
- 新しい考えが示されるときに意味を理解するのに困難を覚えること
- コースか課題のいずれにも価値や意味をほとんど求めないこと
- 目的や戦略を反映させずに勉強すること
- 過度のプレッシャーを感じ、学習について心配すること

活動の「動詞」から見る学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴

学習活動	深いアプローチ	浅いアプローチ
<ul style="list-style-type: none"> ●振り返る ●離れた問題に適用する ●仮説を立てる ●原理と関連づける ●身近な問題に適用する ●説明する ●論じる ●関連づける ●中心となる考えを理解する ●記述する ●言い換える ●文章を理解する ●認める・名前をあげる ●記憶する 		

Entwistle, McCune, & Walker (2010), table 5.2 (p. 109) の一部を翻訳

Biggs & Tang (2011), Figure 2.1 (p. 29) の一部を翻訳・作成

1. 知識・技能

2. 思考力・判断力・表現力

←これまでの入試

3. 問題・課題発見能力

4. 問題解決能力

5. 主体的に学ぶ力

**6. 多様な人々と協働しつつ
学習する態度**

←これからの入試

1. 知識・技能

2. 思考力・判断力・表現力

3. 問題・課題発見能力

4. 問題解決能力

5. 主体的に学ぶ力

**6. 多様な人々と協働しつつ
学習する態度**

←これまでの入試

←これからの入試

**これは公立中高一
貫校の入試でこそ
身に付きます！**

子どもの未来を守る三つのメリットとは？

2. 落ちても人生設計が超有利！

- ・高校受験のスタートが圧倒的に早くなる！
- ・公立中の生徒が高校受験の準備をするのは通常、中2の夏以降。遅い生徒は中3から。多くの生徒が手遅れになる。
- ・公立中受検生は入試の翌週から中学校の予習をスタート。落ちた生徒の多くは高校受験でリベンジ成功！

子どもの未来を守る三つのメリットとは？

3. 保護者が破産しても大丈夫！

- ・公立中高一貫校は私立中高一貫校より600万以上コスト削減！
- ・公立中高一貫校の主目的は生徒を国立大学に入れること。
親の経済力に関係なく志望大学・学部を選ぶ！
(私立大学医学部4000万 国立大医学部350万)
- ・ちなみに私立中受検は、都内なら小2の2月～が一般的。
公立中受検は小5の春が一般的。早くても小4の春から。

子どもの未来を守る三つのメリットとは？

つまり、公立中受検は

子ども自身が一番得する試験

内申について

知らないと落ちる

大きくかわった内申のつけかた！

内申について

観点別学習状況の評価の観点の整理

2. 学習評価の基本構造

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理。

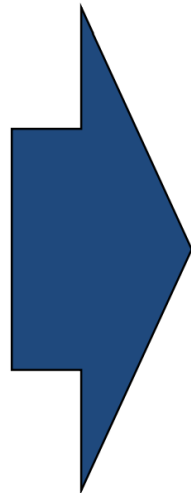
<新学習指導要領>

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解



知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度

内申について

知識・技能

思考力・判断力・表現力

+

主体性・多様性・協働性

学びに向かう態度（関心・意欲・態度）

内申について

(内申を決める三つの要素)

(どれくらいの配分か?)

①授業中の取り組み
(学びに向かう態度)

30%

②提出物
(学びに向かう態度)

20%

③テスト

50%

内申について

各校の配点

横浜南・サイフロ	400	点満点で100点が内申	(5、6年)
相模原・平塚	900	点満点で200点が内申	(5、6年)
川崎	1000	点満点で100点が内申	(6年)
小石川	800	点満点で200点が内申	(5、6年)

内申について

どうやってつける 横浜南・サイフロの例

小学5年生、6年生における8教科の評定を次のように点数化

評定3 → 10点

評定2 → 5点

評定1 → 1点

この合計値160点満点を、100点満点に換算。

内申について

どのくらい差が開く？

ALL2の生徒と、ALL3の生徒では、
総得点の合計400点（適性検査300点+内申100点の）だと

50点の差がつく。これは大きい。

内申について

ただ、現実的には・・・

内申2と3が半々～ほとんど3の生徒の受験生が中心。この戦いになる。
なので、実質的には、**25点差程度**が実態。

400点中25点は、小さくはない。
しかし、適性検査でがんばれば取り返せる！